

<山行記録> スイストレッキング

日 時：2012. 6. 30 (土)～7. 8 (日) 9日間

今回は、モンベル主催の「モンベル代表辰野勇と行くスイストレッキング」に参加したもの。辰野勇氏は、1969年にアイガー北壁（日本人2番目、当時世界最年少での登頂）と同年マッターホルン北壁の登頂に成功した登山家で、モンベルを創業、現在代表をなっている。このツアーは両北壁の登山拠点となる、グリンデルワルトとツェルマットを中心としたもので、一般登山客対象のツアーとしては、変化に富んだ個性豊かなトレッキングであった。

<トレッキングコース> 注：日時は現地時間、天候等でコース変更の場合変更後のコース

－ グリンデルワルト(1,034m) －

7月1日(日) グリンデルワルト→(ゴンドラ) フィルスト(2168m) ⇄バッハアルプゼー(2265m、往復) →グローセシャイデック(1961m) →(バス) グリンデルワルト

7月2日(月) グリンデルワルト→(列車) グルンド→(ロープウェイ) メンリッペン(2227m) →クライネシャイデック(2061m) →アルピグレン(1651m)

7月3日(火) アルピグレン→(列車) クライネシャイデック→(列車) ユングフラウヨッホ(3454m) ⇄メンヒ小屋(3628m、往復) →グリンデルワルト

－ ツェルマット(1,620m) －

7月5日(木) ツェルマット⇄ヘリコプターによる周遊、→(列車) ゴルナーグラード(3089m) →リッフェルベルク(2585m) →リッフェルアルプ(2211m) →(列車) ツェルマット

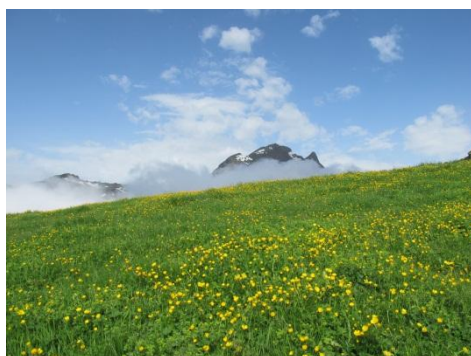
7月6日(金) ツェルマット→(ロープウェイ) シュバルツゼー(2583m) ⇄ヘルンリ小屋(3260m 往復) →(ロープウェイ) ツェルマット

7月1日

朝起きてアイガー側のテラスから外を眺めると山が霞み、霧雨が手を濡らす。時々本降りのようになり、幸が良くない。が、朝食が終わり、出発の準備をしていると、突然一部に青空が見えてきた。山の天候は変わりやすい。

8時半過ぎにホテルを出てゴンドラに乗り、フィルストまで行く。ゴンドラ終点駅の眼前にはアイガー(3970m) 東南壁や正面にシュレックホルン(4078m) がそびえる。

バッハアルプゼまでは100m余りの登りだが、お花畑と雪を抱いた山と空のコントラストが素晴らしく疲れを感じさせない。しかし、山の天気の変化は急で、バッハアルプゼに着く頃には、ガスで景色は殆ど見えなくなる。



ここで、突然ファイト一発の宍戸開氏が現れる。近くの池畔では、モンベルのスタッフが毛氈のようなものを敷き、辰野氏がお茶を点てる。残念なことに、後に見えるはずのアイガーは今は雲の中だ。皆が一服頂いた後、今度は辰野氏の笛の音に聞き入る。

山の天気の変化は急で、徐々に霧雨が混じるようになる。急ぎフィルストまで戻り、ここで昼食を取る。



午後は曇時々霧雨状態の中、お花畑を楽しみながら歩く。この辺りは放牧地で、日本の高山植物とは違い、斜面一帯に季節の花を咲かせ、雄大ではあるが、少し可憐さに欠ける。時間と共に天候は悪くなり、皆が雨具を身につける。足早にグローセシャイディクへ急ぐ。そこからバスでグリンデルワルトに戻る。町に着くと雨は止み、今度は町を散策する。



7月2日

今日は朝から雷鳴の轟く土砂降りの雨だ。しかし出発の頃には雨は小降りとなり、予定通り



登山電車とロープウェイを乗り継ぎメンリッヘンへ行く。歩き出すと雲が少し切れ、青空が覗き出した。再び雨が降り出すが、時々雲の切れ間からアイガー北壁が見える。アイガー北壁が見えるとき、辰野氏が登ったルートや、北壁についての様々な物語などを聞



かせてもらう。

鉄道の乗換駅であるクライネシャイデックに着く頃には雨足も大分強くなった。当初の予定では、ここからアイガークレッチャーまで行き、アイガー北壁の下を歩き、その後700m余り下ることになっていた。しかし、少し危険な箇所もあり、今日は直接宿泊予定の山小屋のあるアルピグレンまで、牧草地の中のなだらかな丘陵地を400m余り下って行くことになった。

7月3日

アルピグレンはアイガー北壁の麓にある、牧草地だ。ここで搾乳しチーズなどを作っている。40年以上前、辰野氏がアイガー北壁に挑むときここで宿泊し、登頂祝いをした山小屋だそうである。近くに登山鉄道が走り、グリンデルワルトの町もよく見える中々の好立地にある。肝心の天気の方は、昨日よりは良く、雲は多いものの、何とか雨は避けられそうである。



昨日のアイガー北壁下のトレッキングを断念しているので、今日は、是非、メンヒ小屋へ行きたい。

登山鉄道に乗り、ユングフラウヨッホへ向かう。少し青空が覗いて来る。アイガーの山中にくり抜いたトンネル内の中間駅

からはメンヒ小屋方面がよく見える。この天気なら、無事氷河の上を歩けそうだと、少しほっとする。しかし、よくこんな所に鉄道を敷いたものだと思う。



ユングフラウヨッホ駅から氷河上に出る。ガスが湧き起こったと思うと、急に青空が見えたり、



天気変化が目まぐるしい。隙間の晴れに必死に写真を撮る。振り返るとユングフラウヨッホの展望台が見える。白と青の実に爽やかなコントラストだ。しかし、それ

もつかの間、直ぐにガスと雪との灰色だけの世界に変わる。1時間半程、ゆっくりと氷河の上部を歩く。道は急ではないが、やはり3500m以上の高度もあり、少し体調の悪い人も出る。突然ガスの向こうの岩の上に建物が見える。メンヒ小屋だ。が、よく



こんな場所に作ったと思う。雪崩を避けるための工夫だろうか。



帰りも殆どガスの中ではあるが、何となく安心感もあり、皆で雪

と戯れながら戻る。ほんの瞬間、雲が切れユングフラウの山が見える。小屋での昼食を含め、4時間程度のトレッキングであったが、少し達成感に満たされる。

展望台を少し散策した後、グリンデルワルトに戻り、ここでのトレッキングは終了した。

7月4日

今日は、グリンデルワルトからツェルマットまでバスで移動し、夕方、ツェルマットの町を同地の観光局長に案内してもらおう。その後、ミュージアムで歓待を受けた。このような人の繋がりを生かしたイベントも他にはない特徴と思われる。

7月5日

5時頃に目が覚める。テラスから外を眺めると、マッターホルンが月の光と曙光で美しく映えている。快晴だ！ 暫くするとあちこちのホテルから人が出てくる。自分も慌ててホテルを出る、が、既に街に殆ど人の姿が見えない。兎にも角にも、マッターホルンがよく見える場所を探す。漸く、パンフレットの写真に近い場所に辿り着き、カメラを構える。



朝食を終えると、既にマッターホルンの頂上付近は雲に隠れている。まだ、8時過ぎなのに、天気の変化は激しい。これから、ヘリコプターでマッターホルンを周遊するのに雲は容赦なく広がっていく。発着順番が中々回ってこない、雲はどんどん増えていく。

ヘリコプターに乗ると今までの心配も吹っ飛ぶ。360度の大自然が眼前に迫る。マッターホルンの頂上（右上）やスイス最高峰のモンテローザ（左下右のピーク）の山頂も雲が掛かっていたが、余りのある美しい景色に皆が感動する。

今度は登山列車でマッターホルンの向かい側にあたるゴルナーグラートへ向かう。天気の変化は早く、既に山は中腹までしか見えない。眼前にはモンテローザから続く、



ゴルナー氷河やフィンデル氷河が広がる。しかしスケールの大きな風景は圧倒的な迫力でこちらに迫ってくる。ここで、再び



ファイト一発の穴戸開さんが現れ、一緒にリップフェルベルクまでトレッキングをする。このコースは、天気が良ければ、モンテローザからブライトホルン、マッターホルン、ヴァイスホルンまでの、4000mを越えるアルプスの主峰とそこからの氷河が一望できるが、生憎の天気で氷河しか見えない。ここで、このツアーの名物イベント、野点が始まり、その後辰野氏の笛の音に、皆、耳を傾ける。

ゴルナーグラードから、リュッフェルアルプまでは標高差約900mあり、逆さまッターホルンの見えるリュッフェルゼー（2757m）までは、殆ど岩ばかりのコースで、そこから



リュッフェルベルクにかけ、高山植物と岩のコースとなる。更に下ると、放牧地や山の斜面などの

コースで、花も、可憐で小さな塊で咲いている高山植物から、ハイジーンの世界の一面の花畑へと、徐々に姿を変えていく。雲も薄くなり、ツェルマットの町も見えてくる。



7月6日（金）

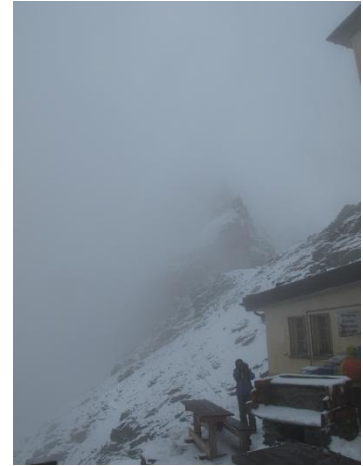
今日は最終日だ。目的地はマッターホルン登頂のベースキャンプ地となるヘルンリ小屋までのトレッキングだ。しかし天候が余り良くない。朝一番のロープウェイに乗りシ



ュバルツゼーまで行く。風が強く、小雨が舞う生憎の天気だ。天気が良いとそこからヘルンリ小屋が見えるのだが、今日はガスの中だ。



今朝の連絡で小屋付近には雪が舞い、積雪もあり通常のトレッキング準備では無理と言われる。しかし、行けるところまで行こうということで進む。前方の岩稜のピーク手前に小屋が見える。山岳部出身者がもっと行きたいと詰め寄る。



更に行けるところまで進む。北壁の氷河が迫る稜線を過ぎると、小屋までもう一息だ。

漸く小屋に到着する。天候が更に悪くなることも考えられ、ホットチョコレートを飲み、直ぐに下山準備に掛かる。道は雪が積もり、一部凍っている場所もあり、下りは危ない。ゆっくりと下りているうちに、今度は徐々に天候が回復してくる。遠くにモンテローザ（4634m）とその氷河、更に高度を下げ、反対側にはヴァイスホルン（4505m）とそれに



続くツィナールロートホルン（4221m）など、アルプスの主峰が続く。最後にツェルマットの町を投眺め、今回のトレッキングは終了した。やはり、アルプスの眺めは雄大だ。



以上